

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 09年10月 ～輸出の回復基調が鮮明に

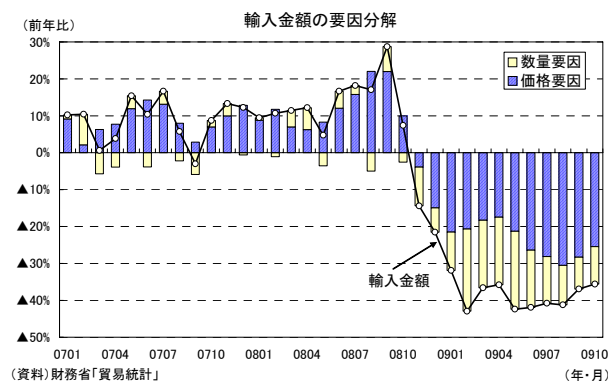
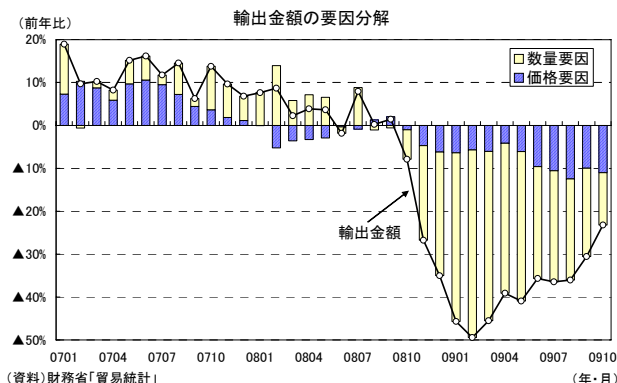
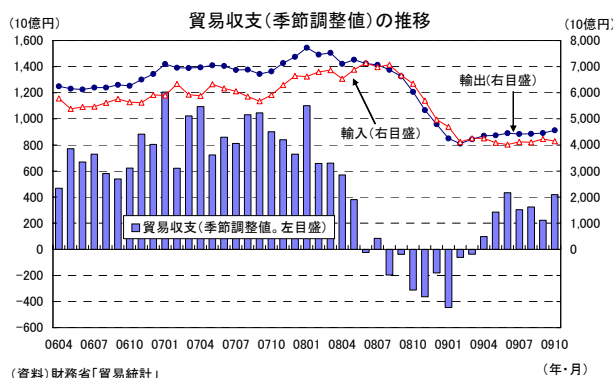
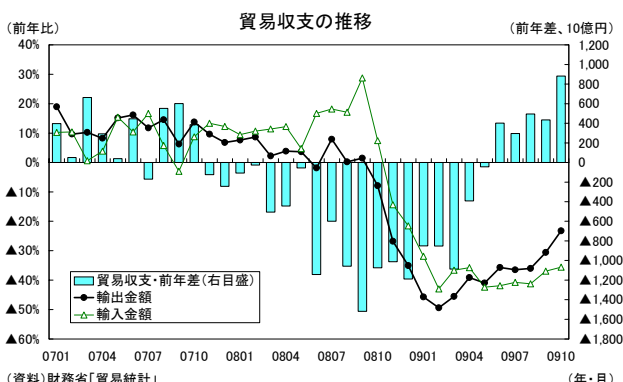
経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出の減少幅が大きく縮小

財務省が11月25日に公表した貿易統計によると、10月の貿易収支は8,071億円と9ヵ月連続の黒字となり、事前の市場予想（ロイター事前予想：4,522億円、当社予想は5,611億円）を大きく上回った。

輸入の減少幅が前月並みにとどまる（9月：前年比▲36.9%→10月：同▲35.6%）一方、輸出の減少幅が大きく縮小した（9月：前年比▲30.6%→10月：同▲23.2%）ため、貿易収支の水準は前年に比べ大きく拡大した（前年同月は貿易赤字）。季節調整済の貿易収支は4,191億円と7ヵ月連続の黒字となり、黒字幅は前月の2,231億円から大きく拡大した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲13.0%（9月：同▲21.8%）、輸出

価格が前年比▲11.8%（9月：同▲11.2%）であった。前年と比べた輸出数量の減少幅はこのところ急速に縮小している。昨年秋のリーマン・ショック以降の急速な落ち込みの反動もあり、11月の輸出数量は1年4ヵ月ぶりに前年比でプラスに転じる可能性もあるだろう。

輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲11.7%（9月：同▲10.2%）、輸入価格が前年比▲27.0%（9月：同▲29.8%）であった。

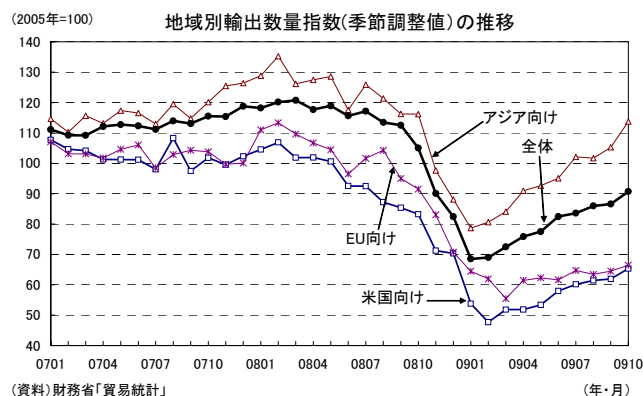
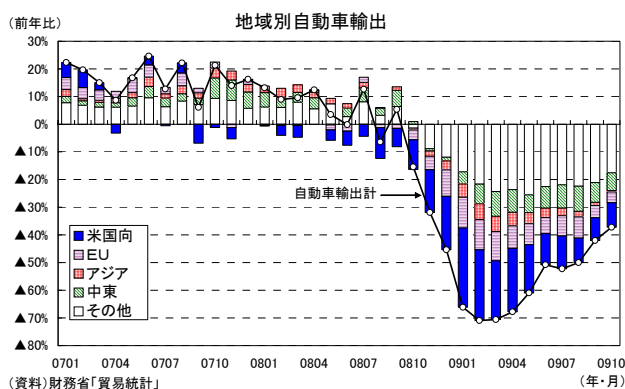
2. 米国、EU 向け輸出も持ち直しの動きが明確に

自動車輸出は前年比▲37.2%となり、9月の同▲42.1%から減少幅が縮小した。米国向け（9月：前年比▲29.4%→10月：同▲29.4%）の減少幅は前月と変わらなかったが、中国向けが前年比6.7%と3ヵ月連続で増加したことなどから、アジア向け（9月：前年比▲12.5%→10月：同▲6.1%）の減少幅が大きく縮小したほか、EU向け（9月：前年比▲37.8%→10月：同▲34.8%）も減少幅が縮小した。一方、中東向け（前年比▲42.5%）、ロシア向け（前年比▲90.7%）は依然大幅な減少が続いている。

10月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲21.1%（9月：同▲27.3%）、EU向けが前年比▲26.8%（9月：同▲31.7%）、アジア向けが前年比▲1.9%（9月：同▲9.6%）といずれの地域向けも減少幅が縮小した。

地域別の輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前月比5.5%、EU向けが同3.0%、アジア向けが同8.1%、全体では同4.7%となった。中国を中心としたアジア向けが引き続き高い伸びとなり輸出の牽引役となっているが、回復が遅れていた米国向け、EU向けも持ち直しの動きがはっきりとしてきた。

輸入数量は前月比▲2.2%と5ヵ月ぶりに低下した。10月の輸入数量指数(季節調整値)は7-9月期の水準を0.7%上回っており、国内生産の回復を背景とした輸入の増加基調は維持されているとみられるが、輸出の増勢ペースがそれを上回っているため、10-12月期も引き続き外需が成長率の押し上げ要因となることが見込まれる。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。